

新ウイグル語の形容詞について

長瀬 太亮

(東アジア課程 モンゴル語専攻)

キーワード：新ウイグル語，限定用法，叙述用法，名詞，形容詞

0. はじめに

本稿では新ウイグル語¹の形容詞分類について再考する。ローマ字転写²、先行研究の日本語訳、表・例番号、グロス、下線はとくに断りのない限り筆者による。今回の調査に協力してくださったインフォーマントは父母ともにカシュガル出身で、言語形成期もカシュガルで過ごされた20代女性である。先行研究は新ウイグル語ウルムチ方言について書かれているものだが、今回の調査で扱った言語は新ウイグル語カシュガル方言である。

1. 先行研究

従来新ウイグル語の形容詞は意味的側面から分類されてきた。Nesurlar(1980: 136-137)では形容詞の定義について以下のように述べている。

語彙の意味から具体的な物事の色や特徴を示した語を形容詞という。

(1) qizil 「赤い」 qizil tagh 「赤い山」

Nesurlar(1980: 136-137)

形容詞が意味方面から分類されているので、文法的側面から形容詞を再分類すべきだと考えた。そのことにより新ウイグル語で従来形容詞と言われてきた語の中から他の品詞に分類される語が出てくる可能性がある。

2. 分類方法と調査

通言語的に形容詞の最も典型的な働きと言えるのは、限定用法と叙述用法である。しかし、新ウイグル語では限定用法・叙述用法は形容詞特有の働きではなく、名詞も似た働きをする。その際、形容詞と名詞は形態統語的に全く同じ振る舞いをする。

¹ 現在話されている新ウイグル語は古代ウイグル語の要素を継承していることは確かであるが、その成立と発展過程は複雑であり、両言語間の差異も大きいので、学問上では両者を区別して、現在話されているものを「新ウイグル語」と呼び、古いものを「ウイグル語」または「古代ウイグル語」とよぶ。

庄垣内(1989: 282)

² ローマ字転写法は菅原純・アイシマ=ミルスルタン(2007: 2-3)に則った。

l=a, e=e, b=b, p=p, t=t, j=j, ch=ch, x=x, d=d, r=r, z=z, zh=zh, s=s, sh=sh, gh=gh, f=f, q=q, k=k, g=g, ng=ng, l=l, m=m, n=n, h=h, o=o, u=u, ö=ö, ü=ü, w=w, é=é, i=i, y=y

叙述用法

(2) u tagh igiz(-dur).

この山 高い(-3.SG) 「この山は高い。」(形容詞が述部)

(3) u kitab(-dur).

これ 本(-3.SG) 「これは本です。」(名詞が述部)

限定用法

(4) igiztagh

高い山 「高い山」(形容詞が修飾語)

(5) yaghach üy

木 家 「木の家」(名詞が修飾語)

名詞も形容詞もお互い同じ形態統語的な振る舞いをするので限定用法・叙述用法だけでは名詞と形容詞の区別がつかない。ここで形容詞と名詞を区別するそれぞれの文法的特徴が必要とされる。

2.1. 名詞の特徴

以下は趙相如・朱志宁(1985: 37-38)の要約である。

名詞には複数接辞・所有接辞・格接辞がつく。

①複数接辞(-lar/-ler)

(6) yoldash-lar(同志-PL) 「同志達」

②所有接辞

私の -(i/u/ü)m **私達の** -(i/u/ü)miz

君の -(i/u/ü)ng **君達の** -(i/u/ü)nglar

貴方の -(i/u/ü)ngiz **貴方達の** -(i/u/ü)ngizlar

彼の、彼女の -(s)i

③格接辞

主格ゼロ(主体) **属格**-ning(所有) **対格**-ni(直接目的語) **位格**-da/-de/-ta/-te(場所) **与格**-gha/-ge/-qa/-ke(行為の方向) **奪格**-din/-tin(起点)

趙相如・朱志宁(1985: 37-38)

ただし、趙相如・朱志宁(1985: 57)には、複数接辞・格接辞・所有接辞は形容詞にも付くと書かれている。

(7) kichik-ler aldi-gha chong-lar arqi-gha tizla-nghar.

小さい-PL 前-DAT 大きい-PL 後ろ-DAT 並ぶ-2.PL

「小さい人は前に、大きい人は後に並んでください。」

赵相如・朱志宁(1985: 57)

2.2. 形容詞の特徴

以下に新ウイグル語の形容詞の特徴について述べている赵相如・朱志宁(1985: 52-55)の記述をまとめる。

①非派生形容詞と派生形容詞

形容詞は性質(非派生)形容詞と関係(派生)形容詞に分けられる。

非派生形容詞 派生形容詞(-lik, -siz, -ghi など)

(8) aq 「白」 (9) eqil 知恵 eqilliq 「賢い」

②形容詞は級を持ち、比較級接辞(-raq/-rek)が接続する。

(10) az-raq

少し-COMP 「あとちょっと」

③~din ~の用法

形容詞に奪格-din を付けて、形容詞を重ねると形容詞の意味が強調される。

(11) igiz-din igiz

高い-ABL 高い 「とっっても高い」

④強意形・縮小形

強意形(形容詞の第一音節+p が形容詞の前にでる)と縮小形(接尾辞-uch/-üch/-ghuch/-mtul)などがある。

(12) qara 「黒い」 **強意型** qap qara 「真っ黒な」 **縮小形** qara-mtul 「薄黒い」

⑤指小辞

指小辞(-ghina/-qina/-gine/-kine)が接続する。

(13) kichik 「小さい」 kichik-kine 「ちっちゃな」

赵相如・朱志宁(1985: 52-55)

しかし、これらの用法は全ての形容詞に接続するものではない。cheksiz(無限の)のように比較級が付かない形容詞も存在する。

2.3. 文法的側面から見た形容詞の分類手順

2.2.節を踏まえて、今回設定した形容詞の判断は以下の手順を踏む。

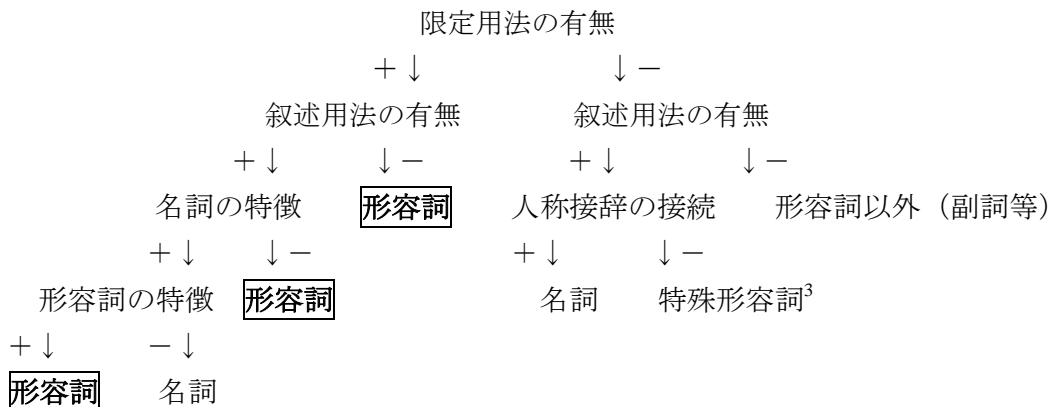


図 1: 形容詞の分類手順

- ・ 限定用法を持っていることで、品詞分類は名詞か形容詞かの 2 択になる。その中で、文法的に名詞になり得ない語を形容詞と判断する。
- ・ 名詞はコピュラ文の述部になる働きがあるので、叙述用法を持っていない語は名詞として判断されない。つまり、限定用法(+)で叙述用法(-)の語は形容詞である。
- ・ 限定用法・叙述用法両方を持つが、名詞の特徴を持っていない語は、形容詞の特徴の有無に関わらず形容詞である。形容詞の特徴は元々すべての形容詞に当てはまるものではない。
- ・ 名詞の特徴をもっている時、初めて形容詞の特徴に着目する。その時、形容詞の特徴を持つ語は形容詞である。

2.4. 調査方法

調査はインフォーマントのインタビュー調査により行った。調査に使う語は趙相如・朱志宁(1985: 52-53)と Nesurlar(1980: 138)で形容詞の定義についての説明がされていた箇所に形容詞の単語例として挙がっていた語である。形容詞の特徴の有無、複数接辞はインフォーマントの内省により判断してもらい、限定用法、叙述用法の有無、格接辞・所有接辞の接続可否は例文を作ってもらい、検証した。

検証に使った単語

aq(白), qara(黒), kök(青), ala(まだら), yéshil(緑), qizil(赤), uzun(長い), qisqa(短い), sémiz(太い), oruq(痩せた), chong(大きい), kichik(小さい), igiz(重い), paqal(軽い), yaxsh(良い), yaman(悪い), soghuq(冷たい), temliq(おいしい), temsiz(まずい), eqilliq(知性のある), eqilsiz(知性がない),

³ 特殊形容詞は bar(～がある)、ige(～を持っている)等の語である。叙述用法において人称接辞(-dur 等)が接続しない。形容詞と文法的特徴が異なるので本稿では形容詞と見なさない。

küchlük(強い), küchsiz(弱い), hazirqi(現代の), ilgiriki(以前の), nurluq(光の), pulsiz(貧乏な), cheksiz(無限の), balajan(子供好きな), aghriqchan(病気がちな), yazghi(夏の), qedimqi(古代の), qushtek(鳥のような), uningdek(彼のような), haywande(動物のような), tarixiy(歴史の), diniy(宗教の), asasiy(基本的な), béyjingdiki(北京にある), mektepdiki(学校にある), bitereq(中立の), bimene(無意味な), issiq(熱い), chirik(腐敗した), qalaq(没落した), bölek(他の), sozuq(楕円形の), süzük(澄んだ), tejlghaq(滑りやすい), qorqunchluq(恐ろしい), sezgek(敏感な), üskek(角で突く), maxtanchoq(自惚れた), yasanchoq(お洒落な) (54 語)

2.4.1. 限定用法・叙述用法の有無

以下のように例文を作ってもらい、検証した。下線部が検証した語である。

(14) temliq tamaq

美味しい 料理 「美味しい料理」 限定用法

(15) bu tamaqtemliq.

この料理はおいしい。 「この料理は美味しい。」 叙述用法

2.4.2. 名詞の特徴の有無

以下のように例文を作ってもらい、検証した。下線部が検証した語である。

主格 「○○(検証する語。以下○○で表示)は～だ。」で検証。

(16) aqpaqaz rengi.

白 綺麗 色 「白は綺麗な色だ」

属格 「○○の～に～する。」で検証。

(17) qizil-ning ust-i-da sol qol-ingiz-ni qoy-ung

赤-GEN 上-3.POSS-LOC 左 手-2.POSS-ACC 置く -IMP

「赤の上に左手を置いてください。」

対格 「○○を～する。」で検証。

(18) kichik-ni bozak qil-ma.

小さい いじめ する -PROH 「子供をいじめるな。」

位格 「○○に～する。」で検証。

(19) qizil-da tur-ung.

赤-LOC 立つ -IMP 「赤の上に立ってください。」

与格 「○○が好きだ。」で検証。

(20) qizil-gha(赤-DAT) amraq(好きだ).

赤-DAT 好きだ 「赤が好きだ。」

奪格 「○○より～が好きだ。」で検証。

(21) aq-din qara-ni yaxsh kör-i-men.

白-ABL 黒-ACC 良い 見る -PRE-1.SG 「白より黒が好きだ。」

所有接辞 「(～の中の)○○(のもの)を～する。」で検証。

(22) qelem-ning yaxshi-si-ni al-di-m(取る-PAST-1.SG).

ペン-GEN 良い-3.POSS-ACC 取る-PAST-1.SG

「ペンの中で良いものをとった。」

3. 調査結果と考察

2章の分類方法と調査方法により、趙相如・朱志宁(1985: 52-53)と Nesurlar(1980: 138)で形容詞の定義についての説明がされていた箇所に形容詞の単語例として挙がっていた語の中で、形容詞として判断されなかった語は次の語である。これらは限定用法と叙述用法を持ち、名詞の特徴もすべて持っていたが、形容詞の特徴を持っていなかった為、名詞と判断せざるを得ない。

今回の調査で名詞と判断された従来形容詞と言われて来た語

pulsiz(貧乏な), biterep(中立の), qalaq(没落した), bölek(他の) (4語)

今回の調査で形容詞と分類された語にも文法的に一貫した特徴がないことが判明した。形容詞をさらに下位分類できる余地が見られた。

4. 形容詞の下位分類

形容詞を名詞の特徴を持つ名詞型と名詞の特徴を持たない純形容詞型で分けた。

名詞型形容詞も純形容詞も、比較級を持つ語のみが強意形を持ち得、強意形を持つ語のみが縮小形を持ち得る。

4.1. 名詞型形容詞

名詞型形容詞と分類された語は以下の特徴を持つ。

- ①すべての非派生形容詞と一部の派生形容詞
- ②形容詞の特徴を持たない語は叙述用法も持たない。(叙述用法を持つと名詞と判断できる為。)
- ③比較級を持つ語のみが強意形を持ち得、強意形を持つ語のみが縮小形を持ち得る。

4.2. 純形容詞

純形容詞と分類された語は以下の特徴を持つ。

- ①純形容詞はすべて派生形容詞
- ②所有接辞が付く語と付かない語がある。
- ③比較級を持つ語のみが強意形を持ち得、強意形を持つ語のみが縮小形を持ち得る。

4.3. 形容詞レベル

名詞型形容詞も純形容詞も比較級を持つ語のみが強意形を持ち得、強意形を持つ語のみ

が縮小形を持ち得る。筆者はそこから、形容詞レベル(レベル1~4)というものを設定した。

レベル1 比較級なし(形容詞の分類基準を満たした語)

レベル2 比較級を持つ

レベル3 比較級・強意形を持つ

レベル4 比較級・強意形・縮小形を持つ

分類の例

例 aq(白い)

- ・非派生形容詞→名詞型形容詞
- ・名詞の特徴を持つ→名詞型形容詞
- ・比較級・強意形・縮小形を持つ→レベル4

以上より、aq(白い)は名詞型形容詞レベル4である。

4.4. 各分類毎の特徴

各分類毎の形容詞の特徴は以下である。単語例は今回の調査で扱った語である。

名詞型形容詞レベル1

- ・全て派生形容詞／一部叙述用法なし

hazirqi(現代の), ilgiriki(以前の), qedimqi(昔の), béyjingdiki(北京にある), mektepdiki(学校にある), uningdek(彼のような), sezgek(敏感な), üskek(角で突く) (8語)

名詞型形容詞レベル2

- ・比較級／比較級を持つ派生形容詞／一部の非派生形容詞

ala(まだら), bimene(無意味な), uzun(長い), qisqa(短い), sémiz(太い), oruq(痩せた), kichik(小さい), igiz(重い), paqal(軽い), yaxsh(良い), yaman(悪い), soghuq(冷たい), eqilliq(賢い), eqilsiz(愚かな), küchlük(強い), küchsiz(弱い), issiq(熱い), aghriqchan(病気がちな), maxtanchoq(自惚れた), yasanchoq(お洒落な) (20語)

名詞型形容詞レベル3

- ・比較級／強意形／全て非派生形容詞／全てが副詞的用法⁴を持つ

yéshil(緑), chong(大きい) (2語)

名詞型形容詞レベル4

- ・比較級／強意形／縮小形／全て非派生形容詞／全てが副詞的用法を持つ

⁴ 例(22)chong körn-i-du.

大きい 見える 「大きく見える」等

aq(白), qara(黒), kök(青), qizil(赤) (4 語)

純形容詞レベル 1

・ 全て派生形容詞

qushtek(鳥のような), haywande(動物のような), tarixy(歴史の), diniy(宗教の), asasy(基本の), sozuq(楕円形の), cheksiz(無限の), chirik(腐った) (8 語)

純形容詞レベル 2

・ 全て派生形容詞／比較級

teyilghaq(滑りやすい), temlik(おいしい), temsiz(まずい), yazghi(夏の) (4 語)

純形容詞レベル 3

・ 全て派生形容詞／比較級／強意形

süzük(澄んだ), qorqunchuluq(恐ろしい) (2 語)

5. 課題

今回の調査は形容詞寄りの視点から調査を行った。名詞寄りの視点から見ると、見解が少し変わる可能性もある。例えば、名詞型形容詞 aq(白い)は複数接辞・格接辞・所有接辞が付く根拠から名詞だと判断され、aq-raq-ni(白-COMP-ACC)のように名詞にも比較級が付くものがあると言うことも出来なくもない。形容詞だけでなく、名詞・副詞寄りの視点からも調査をしていく必要がある。

略号一覧

1, 2, 3: 1, 2, 3 人称／ABL(ablative): 奪格／ACC(accusative): 対格／CAUS(causative): 使役／COMP(comparative): 比較級／DAT(dative): 与格／GEN(genitive): 属格／IMP(imperative): 命令／LOC(locative): 位格／PAST(past): 過去／PL(plural): 複数／POSS(possessive): 所有／PROH(prohibitive): 禁止／PRS(present): 現在／SG(singular): 単数

参考文献

庄垣内正弘(1989)「新ウイグル語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典(第 2 巻 世界 言語編 中)』東京:三省堂／Nesurlar (1980) *Hazirqi zaman uyghur tili*. : 新疆民族出版社／赵相如・朱志宁編(1985)『维吾尔语简志』北京: 民族出版社